



# 名大トピックス

No.138 平成16年11月30日発行 名古屋大学総務企画部総務広報課 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016  
http://www.nagoya-u.ac.jp

## 全学同窓会第3回総会・講演会・懇親会が開催される



### CONTENTS

・全学同窓会第3回総会・講演会・懇親会が開催される.....	2	・エトピア科学研究機構が中部電力株式会社と連携実施協 定を締結.....	27
・野依良治理化学研究所理事長に特別教授の称号を付与.....	7	・エトピア科学研究機構が環境パートナーシップ・CLUB と連携実施協定を締結.....	28
・赤崎名誉教授が文化功労者として顕彰される.....	8	・評価企画室が発足する.....	28
・古川為之氏を招き「古川記念館」の銘板除幕式を挙.....	10	・大学院工学研究科が社会連携室を新たに立ち上げる.....	29
・本学を当番校として国立大学法人化後初の七国立大学長 会議を開催.....	11	・博物館所蔵「栄衛中経図」の解説完了.....	29
・平成16年度高等研究院研究プロジェクト採択者が決定.....	12	・博物館野外観察園セミナーハウスの本格的活用がはじまる...	30
・大学院医学系研究科博士課程後期課程設置記念式典・講演 会等を開催.....	14	・平成16年度医学部医学科公開講座を開催.....	30
・テクノ・フェア名大 2004 が開催される.....	16	・農学国際教育協力研究センターが第6回オープンフォー ラムを開催.....	31
[ 研究ナウ ]		・附属農場が農業教育公園・自然観察会を開催.....	31
・われわれの法文化の由来 筏津 安恕.....	18	・平成16年秋の叙勲受章者が発表される.....	32
・ソフトリソグラフィーを使ってメカノバイオロジーを研究する 成瀬 恵治.....	20	・メンタルヘルスクエア講習会を開催.....	32
・大学院留学生特別コース及び医学系研究科医療行政コース 入学式が挙行される.....	22	・平成16年度名古屋大学職員創作美術展を開催.....	33
・大学院生命農学研究科等が第15回アジア農科系大学連合隔 年会議を開催.....	23	・平成16年度愛知地区国立大学法人等退職準備セミナーを開 催.....	33
・法政国際教育協力研究センターと大学院法学研究科がモン ゴル国とウズベキスタン共和国で国際シンポジウムを開催.....	24	[ 名大生のスポーツ&イベント ]	
・附属図書館が「館長と話そう! 2004」を開催.....	25	・名古屋大学体育会発足50周年記念式典を開催.....	34
・博物館第35回特別講演会「脳神経外科医療の歴史と進歩」を 開催.....	26	[ イベントカレンダー ].....	35
		[ 本学関係の新聞記事掲載一覧 ] 平成16年10月分 .....	36

### ③1 加藤隼五郎と名古屋大学

加藤隼五郎（1883～1970）は、1910年代から60年代にかけて活躍した、当時の愛知県を代表する政党政治家です。名古屋市議、愛知県議をへて、1924（大正13）年には衆議院議員に初当選し、以後当選12回、通算で30年間もその職にありました。戦後は法務大臣や衆議院議長を歴任、勲一等旭日大綬章をうけています。

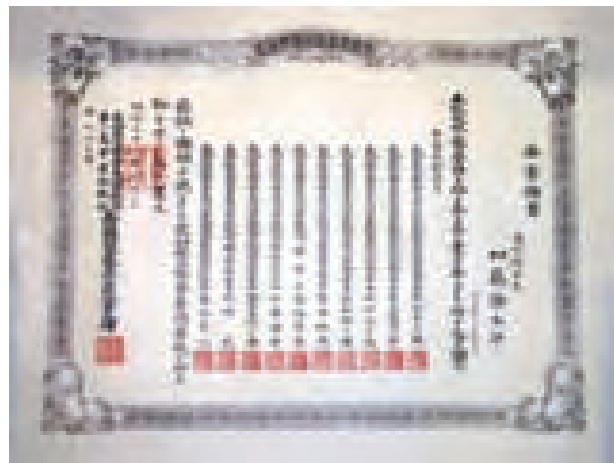
隼五郎は、名古屋大学医学部の前身である愛知県立医学専門学校を1905（明治38）年に卒業し、医師となりますが、やがてかねてよりの志をはたすべく政治家への道を歩みました。ただそれ以後も、愛知医専の人脈がその政治活動をささえたといえます。隼五郎も、愛知医専の大学昇格運動では県知事との交渉や県会での演説、官立名古屋医科大学発足時の鳩山一郎文部大臣との談判など、尽力をおしませんでした。

また隼五郎は、1944（昭和19）年に名古屋帝国大学から医学博士号を授与されています（「ラッテ」胸腺ノ組織学的研究）。これは1937年の落選による約2年間の「浪人」時代、研究生となって名古屋医科大学に通い勉強した成果でした。戦時中の財団法人喜安病院の設立や、戦後の嫌煙薬「キンエン」の開発は、隼五郎が名古屋（帝国）大学医学部との連携のもとにおこなった事業です。

一昨年、孫婿にあたる加藤延夫愛知医科大学学長（元名古屋大学総長）から、「加藤隼五郎関係資料」が愛知県公文書館へ寄託されました。歴史的価値の高い大変貴重な史料群です。これについては、11月発行の『愛知県公文書館だより』第9号に紹介記事があります。



愛知医専時代の隼五郎  
（『加藤隼五郎伝』より）



愛知医専の卒業証書（愛知県公文書館）



衆議院議員時代（1924年）  
（『加藤隼五郎伝』より）



名帝大の医学博士号学位記（愛知県公文書館）

本連載で紹介できる名古屋大学の歴史に関する情報をお持ちでしたら、  
大学文書資料室（052-789-2046、nua\_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡下さい。



# 名大トピックス

No.139 平成16年12月28日発行 名古屋大学総務企画部総務広報課 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016  
http://www.nagoya-u.ac.jp

## 名古屋大学関西フォーラムが開催される



### CONTENTS

・名古屋大学関西フォーラムが開催される.....	2	・エコトピア科学研究機構が愛知県及び名古屋市と連携実施協定を締結...	29
<b>[ 全学ニュース ]</b>		・附属図書館が2004年秋季特別展を開催.....	30
・名古屋大学全学同窓会関西支部が設立される.....	6	・地球水循環研究センターが高校生への体験授業を実施.....	31
・新潟県中越地震被災地へ義援金が届けられる.....	7	・地球水循環研究センターが第14回ユネスコ国際水文学研修コースを開催...	32
・故飯島元学長の学術資料寄贈に対し感謝状を贈呈.....	7	・農学国際教育協力研究センターが2004年度第6回オープンセミナーを開催...	32
・平成16年度数学コンクール表彰式が行われる.....	8	・博物館が第36回特別講演会を開催.....	33
・名古屋大学地震防災訓練が実施される.....	10	・博物館が秋の野外実習「ドングリのサイエンス」を実施.....	33
・永年勤続者表彰式を開催.....	11	<b>[ 研究ナウ ]</b>	
・名古屋大学全学同窓会ラウンジが広報プラザ内に開設される.....	12	・分子装置としての生物時計 石浦 正寛.....	34
・第27回名古屋大学OB・職員懇談会を開催.....	12	・中学生の問題行動の発達についての縦断的研究 氏家 達夫.....	36
・高等研究院フォーラムが開催される.....	13	・分子ゆらぎのつくる生命プロセス 笹井 理生.....	38
・平野総長がニュージーランド カンタベリー大学を訪問.....	14	<b>[ キャンパスクローズアップ ]</b> 5 高等総合研究館.....	40
・太陽地球環境研究所が大型光学望遠鏡開設記念式典を挙行.....	15	<b>[ 受賞 ]</b>	
<b>[ 部局ニュース ]</b>		・受賞者一覧.....	42
・教育学部附属中・高等学校が学校説明会を開催.....	16	・丹羽理学研究科教授が仁科記念賞を受賞.....	43
・国際シンポジウム「開発における法の役割」を開催.....	17	<b>[ 名大生のスポーツ&amp;イベント ]</b>	
・「NANTEN 2」サブミリ波天文台の開所式がチリのアタカマ高地で挙行される...	18	・第41回須賀杯争奪駅伝競走大会が開催される.....	43
・大学院工学研究科とアイソトープ総合センターが名古屋市消防局特殊災害課程講習会を開催.....	19	・医学部保健学科4年の江原康太郎さんが全国学生相撲個人体重別選手権65キロ未満級で優勝.....	44
・大学院工学研究科が「高度総合工学創造実験」を開講.....	20	・第36回全日本大学駅伝対校選手権大会出場.....	45
・医学部が解剖弔慰祭を挙行.....	21	・航空部が第24回東海・関西学生グライダー競技会で優勝.....	46
・農業ふれあい教室「お米を科学する」が終了.....	21	<b>[ 新任部局長等の紹介 ]</b> .....	46
・附属農場が平成16年度農業教育公園・講演会(第2回・第3回)を開催.....	22	<b>[ INFORMATION ]</b>	
・大学院国際開発研究科が愛知万博の開発途上国支援研修を実施.....	23	・名古屋大学東京フォーラム2005.....	47
・名古屋大学公開セミナー「変動する地球環境」を開催.....	24	・大学文書資料室が「ちょっと名大史」総集号を刊行.....	48
・第6回「まちとすまいの集い」を開催.....	25	<b>[ イベントカレンダー ]</b> .....	49
・ハザードマップワークショップを開催.....	26	<b>[ 本学関係の新聞記事掲載一覧 ]</b> 平成16年11月分.....	51
・環境医学研究所生体情報計測・解析(スズケン)寄附研究部門の創設記念式典等を開催.....	27		
・エコトピア科学研究機構が設立記念式典・国際シンポジウムを開催.....	28		
・エコトピア科学研究機構が財団法人電力中央研究所と連携実施協定を締結...	29		

③②「牧島メモ」  
旧学生部初代次長 牧島久雄

牧島久雄（1913～2000年）は、1939（昭和14）年に東京文理科大学卒業後、奈良女子高等師範学校教授等を経て、1946年には第八高等学校（八高）教授になりました。その後、1949年に八高が新制名古屋大学に包括されて旧教養部になった際、牧島は本学講師になり、1954年には本学助教授となりました。また、牧島は、1959年9月の伊勢湾台風の際に学生の自発的な被害者救援活動に協力したことを契機に、1960年2月から事務局学生部学生課長（教養部助教授を兼任）となり、その翌年度には新設された学生部次長職に就任しました。以後、1975年に定年退官するまでの14年間、学生部次長として学生の生活条件改善に尽力しました。その活動の一端は退官記念論文集『生かされた証』に収められています。また、牧島は、本学退職後も愛知留学生会後援会、国際交流団体協議会、国際留学生会館などこの地域の外国人留学生の生活支援活動に貢献しました。

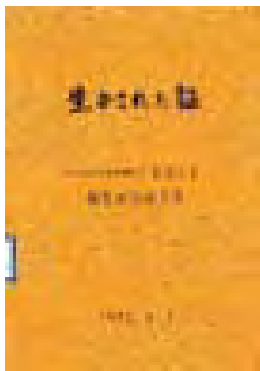
通称「牧島メモ」とは、本学在職中に牧島が書き記したメモです。「メモ」という呼称から数枚程度の記録との印象を受けるかもしれませんが、「牧島メモ」は小型版大学ノートで計206冊にもおよぶ規模の資料群を成しています。現在、「牧島メモ」は、牧島家遺族代表のご厚意により、大学文書資料室に寄託されています。ただし、同メモは大学文書資料室利用規程（第3条第2項）に基づき非公開資料となっています。なお、牧島および「牧島メモ」については、「名古屋大学史資料室ニュース」第10号（2001年3月刊）で詳細に触れていますので、ご参照ください。



牧島久雄氏



「牧島メモ」(一部)



『生かされた証』  
(名古屋大学学生部次長牧島久雄退官記念論文集)

本連載で紹介できる名古屋大学の歴史に関する情報をお持ちでしたら、  
大学文書資料室（052-789-2046、nua\_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡下さい。



# 名大トピックス

No.140 平成17年1月31日発行 名古屋大学総務企画部総務広報課 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel(052)789-2016  
http://www.nagoya-u.ac.jp

## 第12回名古屋大学科学研究オープンシンポジウムを開催



### CONTENTS

・第12回名古屋大学科学研究オープンシンポジウムを開催...	2	・エコトピア科学研究機構エネルギーシステム(中部電力)寄附研究部門が公開見学会を開催.....	18
<b>[全学ニュース]</b>		・農学国際教育協力研究センターが2004年度第7回オープンセミナーを開催.....	19
・豊田章一郎トヨタ自動車(株)取締役名誉会長が本学を視察...	3	・第12回博物館コンサートを開催.....	19
・平野総長が上海の大学等を訪問.....	4	・博物館がパーミヤン遺跡の仏教壁画について世界初の科学的な年代測定を実施.....	20
・全学技術センターが技術支援の説明会を開催.....	6	<b>[名大を表敬訪問された方々] 平成16年10月~12月</b> .....	21
・野依記念物質科学研究館・野依記念学术交流館が中部建築賞を受賞.....	7	<b>[研究ナウ]</b>	
・セクシュアル・ハラスメント防止研修会を実施.....	8	・アジア太平洋諸語の系譜 近藤 健二.....	22
・職員組合と労働協約等を締結.....	8	・超構造らせん高分子 八島 栄次.....	24
・AC21国際学术交流プロジェクトへの協力要請のため山本副総長がチュラロンコン大学とカセサート大学を訪問.....	9	<b>[名大生のスポーツ&amp;イベント]</b>	
<b>[部局ニュース]</b>		・名古屋大学体育会会長表彰式を挙行.....	26
・教育学部がインターンシップ成果報告会を開催.....	10	・舞踏研究会の中河・池中ペアがモダン部門の「クイック・ステップ」で優勝.....	27
・法学部フェスティバル2004が開催される.....	11	<b>[INFORMATION]</b>	
・法学部公開講座が始まる.....	12	・名大史をつむぐ資料を大学文書資料室に!.....	28
・シンポジウム「法曹倫理教育の理念と課題」が開催される...	13	<b>[イベントカレンダー]</b> .....	29
・第4回名大ERC・キタン会 名古屋ビジネスセミナーを開催...	13	<b>[本学関係の新聞記事掲載一覧] 平成16年12月分</b> .....	31
・工学研究科懇話会が開催される.....	14		
・大学院工学研究科が財団法人科学技術交流財団「学術部門賞」を受賞.....	15		
・本多光太郎没後50年記念講演会が開催される.....	15		
・大学院国際開発研究科が国内実地研修現地報告会を開催...	16		
・太陽地球環境研究所がパネルディスカッション「オーロラが教えること」を開催.....	17		

### ③坂田昌一（さかた・しょういち） 研究の民主化と平和利用をもとめて

坂田昌一名誉教授（1911～1970）は、名古屋帝国大学に理学部が発足した1942（昭和17）年から1970年に病死するまで、物理学科（通称物理学教室）の教授として在職しました。ニュートリノなどの素粒子の構造を、いわゆる「坂田模型」や「新名古屋模型」として発表するなど、現在の素粒子物理学の基礎をきずいた世界的に著名な理論物理学者です。『広辞苑』にも、「坂田」の項目にその名前が取り上げられています。

その一方で坂田は、科学が戦争やファシズムに利用された時代を反省し、社会に対する科学者の責任を重視する立場から、研究環境の民主化や研究成果の平和利用を提唱する幅広い活動をした人物としても知られ、多くの著作も残っています（『科学と平和の創造』1963、『科学者と社会』1972など）。

坂田は敗戦直後の1946年、「名古屋大学物理学研究室憲章」制定の中心となりました。そこでは、冒頭に「物理学教室の運営は民主主義の原則に基く。」とうたい、教室が学生をふくめた構成員全員の参加のもと、民主的に運営されることを定めています。同教室では、現在でも憲章の理念にもとづいた規則によって運営がなされています。

また坂田は、京都帝国大学出身の先輩でいずれもノーベル物理学賞をうけた湯川秀樹、朝永振一郎らとともに、科学の戦争利用に反対する運動にも積極的に取り組みました。原子核研究を専門とする立場から、とりわけ核兵器の拡大を憂慮し、科学者による核軍縮運動に情熱をかたむけました。人類がこれまでの「戦争の論理」から、「平和の論理」によって動くようになること、それが坂田の願いだったのです。

本学の自由闊達な学風と、「名古屋大学平和憲章」（1987年制定）における平和主義の精神は、こうした坂田の科学思想の流れをくむものといえるでしょう。

なお、坂田の死後、物理学教室に坂田記念史料室が開設され、多くの関係資料を収集、整理、保存しています。



坂田昌一名誉教授



憲章制定の中心になった坂田（左から2番目）、有山兼孝（同3番目）、上田良二（右から2番目）、関戸弥太郎（右端）の各教授（1946年）



湯川秀樹（左）、朝永振一郎（中央）両博士と坂田教授（後ろ）

本連載で紹介できる名古屋大学の歴史に関する情報をお持ちでしたら、

大学文書資料室（052-789-2046、[nua\\_office@cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp)）へご連絡下さい。



# 名大トピックス

No.141 平成17年2月28日発行 名古屋大学総務企画部総務広報課 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel (052)789-2016  
http://www.nagoya-u.ac.jp

## 名古屋大学「東京フォーラム2005」が開催される



### CONTENTS

・名古屋大学「東京フォーラム2005」が開催される.....	2	・地球水循環研究センターが公開講演会「雲をつかむ」を開催...	15
<b>[全学ニュース]</b>		・年代測定総合研究センターが体験学習を開催.....	16
・名古屋大学全学同窓会関東支部総会が開催される.....	3	・博物館がギャラリートークを開催.....	17
・有本文部科学省科学技術・学術政策局長を招き、「学術政策について」の意見交換会が開催される.....	4	<b>[研究ナウ]</b>	
・本学を当番校として国立七大学副学長懇談会を開催.....	5	・単子論(モノドロジー)という考え方の可能性	
・名古屋大学とイタリア国立核物理学研究所が学術交流協定を結ぶ.....	6	米山 優.....	18
・大学入試センター試験が実施される.....	7	・体の中でできる“さび”の科学 内田 浩二.....	20
<b>[部局ニュース]</b>		<b>[キャンパスクローズアップ]</b> 6 環境総合館.....	22
・医学部保健学科が外部評価報告書を刊行.....	8	<b>[レポート]</b>	
・大学院工学研究科が「赤崎 勇先生文化功労者顕彰祝賀会」を開催.....	9	・スマトラ沖津波災害の調査に出かけて.....	24
・今年度の農業教育公園・講演会が終了.....	10	<b>[名大生のスポーツ&amp;イベント]</b>	
・農学国際教育協力研究センターが2004年度第8回オープンセミナーを開催.....	10	・大学院国際開発研究科津波支援院生有志の会が「スマトラ沖地震の被災者支援を考える会」を開催.....	25
・大学院国際言語文化研究科が中沢新一氏による講演会を開催.....	11	<b>[INFORMATION]</b>	
・大学院環境学研究科がUFJ環境財団寄附講義公開シンポジウムを開催.....	12	・授業料の額の改定について.....	26
・講演会「三河地震から60年を迎えて」が開催される.....	13	<b>[イベントカレンダー]</b> .....	27
・平成16年度先端技術共同研究センター高度技術研修が開講される.....	14	<b>[本学関係の新聞記事掲載一覧]</b> 平成17年1月分.....	29

## ③4 須賀杯争奪駅伝競走大会

毎年10月から1月にかけてのロードレース・シーズンには、いわゆる「学生三大駅伝」 出雲全日本大学選抜駅伝(10月) 全日本大学駅伝(11月) 東京箱根間往復大学駅伝(1月)が開催されます。今回は、そのロードレース・シーズン中に豊田高専(豊田工業高等専門学校)と名古屋大学を舞台に開催される須賀杯争奪駅伝競走大会について紹介します。

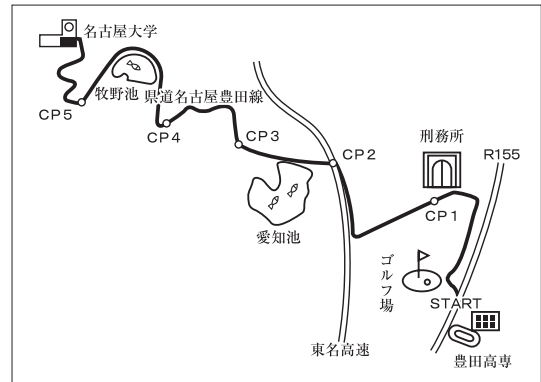
通称「須賀杯駅伝」は、毎年11月下旬頃に開催されます。コースは、下図のように、豊田高専から名古屋大学までの6区間約27kmとなっています。その名称は、創始者である須賀太郎(1903~1986)本学名誉教授にちなんでいます。須賀は、名古屋大学教授時代の1956(昭和31)年から約3年間、学生部長を務めるとともにスポーツを通じての教員学生間の交流を図り、本学体育会の発展にも尽力しました。

当時、名古屋大学工学部教授で陸上競技部顧問をしていた須賀は、1963年4月に豊田高専が設置された際に同校の初代校長に就任し、10年間校長を務めたのち1974年3月に同校を退官しました。その間、豊田高専においてもスポーツ振興にも力を注ぎました。

須賀杯駅伝のように、大学と高専との共同開催で一般道を利用する駅伝は全国的にも数少ないとのことですが、本学と豊田高専の双方でスポーツ振興を図った須賀であったから実現することができた駅伝であるといえます。1964年に第1回大会が開催された須賀杯駅伝は、2004年11月28日秋晴れのもと第41回大会が開催されました。この大会の参加チーム数は本学33チーム・豊田高専26チームの計59チームで、競技の結果、本学のチームが須賀杯を手中に収めました。



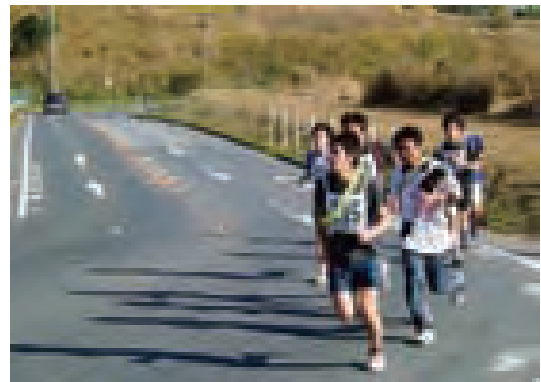
須賀太郎 豊田高専初代校長



須賀杯駅伝ルート図(名大トピックスNo.139より)



須賀杯



駅伝競争大会の様子(名大トピックスNo.139より)

本連載で紹介できる名古屋大学の歴史に関する情報をお持ちでしたら、  
大学文書資料室(052-789-2046、nua\_office@cc.nagoya-u.ac.jp)へご連絡下さい。





# 名大トピックス

No.142 平成17年3月31日発行 名古屋大学総務企画部総務広報課 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016  
http://www.nagoya-u.ac.jp

## 個別学力検査が実施される



### 特集

平成16年度 定年退職教授のことば(24~51頁)

### CONTENTS

・個別学力検査が実施される.....	2	・年代測定総合研究センターが第17回タンデトロン加速器質量分析計シンポジウムを開催.....	15
<b>[全学ニュース]</b>		・大学文書資料室の看板上掲式・男女共同参画室の移転披露式が挙行される.....	16
・第3回経営協議会及び第2回総長選考会議が開催される.....	4	・八高会から大学文書資料室に寄附金が贈呈される.....	17
・高等研究院平成17年度新規採択プロジェクトが決定.....	5	<b>[研究ナウ]</b>	
・IB電子情報館と野依記念物質科学研究館などが愛知まちなみ建築賞をダブル受賞.....	6	・東アジア共同体への経済・開発 이슈ー	
・管理職研修会が開催される.....	7	江崎 光男.....	18
・第1回教育記者会懇談会が開催される.....	8	・タンパク質の一生と細胞が働く仕組み	
・平成16年度名古屋大学卒業・修了留学生を送る夕べを開催.....	9	遠藤斗志也.....	20
<b>[部局ニュース]</b>		<b>[若手研究者の紹介]</b>	
・中高年者のための人生・キャリア再設計セミナーが開催される.....	10	・臨界現象における超スケーリングの発見について	
・経済学部・大学院経済学研究科の建物改修が終了.....	11	渡辺 宙志.....	22
・エコトピア科学研究機構が中国科学院過程工程研究所と学術交流協定を締結.....	11	<b>[特集]</b>	
・1999年ノーベル物理学賞受賞 Gerard't Hooft 教授講演会が開催される.....	12	・平成16年度 定年退職教授のことば .....	24
・文部科学省科学技術振興調整費により組込みソフトウェア技術者人材養成プログラムが始まる.....	13	<b>[イベントカレンダー]</b> .....	52
・農学国際教育協力研究センターが2004年度第9・10回オープンセミナーを開催.....	14	<b>[本学関係の新聞記事掲載一覧]</b> 平成17年2月分 .....	54

最近、いろいろなところで絵はがきが注目されています。趣味としての絵はがきづくりがちょっとしたブームになっていますし、美術品や文化財として、あるいは歴史を語る史料として研究や鑑賞の対象にもなっています。

このたび大学文書資料室では、戦前の旧制第八高等学校（戦後の名大教養部、現情報文化学部）の絵はがきを入手しました。開校記念と行幸記念のものです。

開校記念絵はがきは8枚あり、現在では大変珍しいものです。図柄は、イラストの中に八高の施設や行事などの写真が入っています。下の絵はがきの1枚は、1908（明治41）年創立当初の仮校舎（県立一中旧校舎、現名古屋市東区外堀町）と、その翌年移転した新校舎（現名市大瑞穂キャンパス）の写真を並べたものです。もう一枚は、製図や実験の授業風景です。いずれも、発行は第八高等学校校友会、図案は八高絵画研究会となっています。

行幸記念は3枚で、いずれも写真のみの構成です。これは1927（昭和2）年、即位したばかりの昭和天皇が八高を訪れたことを記念したものです。

八高では、さまざまな行事のたびに、こうした絵はがきを発行していたようです。その他、名古屋市博物館には、所蔵されている八高関係資料（八高会寄贈）の中に絵はがきがありますし、八高関係の記念誌にも写真が載っています。

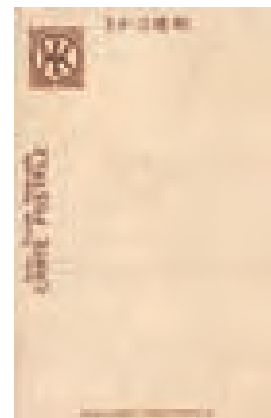
資料室では、こうした絵はがきの展示会ができればと考えています。絵はがきをはじめ、八高関係資料の情報があれば、どんな些細なことでもぜひお寄せください。



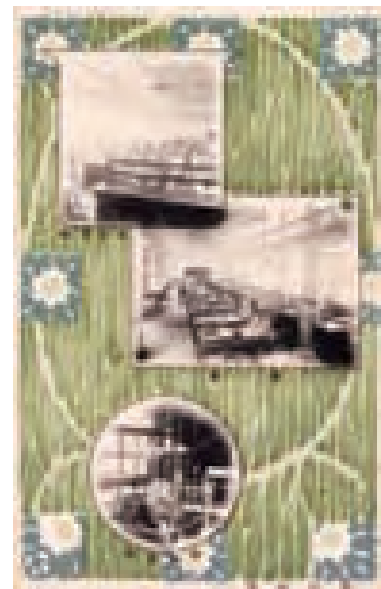
新校舎（上）と仮校舎（下）（開校記念）



行幸記念



裏面（開校記念）



化学実験（上）製図（中）物理実験（下）  
（開校記念）

本連載で紹介できる名古屋大学の歴史に関する情報をお持ちでしたら、  
大学文書資料室（052-789-2046、[nua\\_office@cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp)）へご連絡下さい。

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.143

2005年4月

ニュース

平成16年度卒業式が挙行される



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

## 36

### 東山キャンパス「田村模型」

1940年当時の東山敷地全体模型

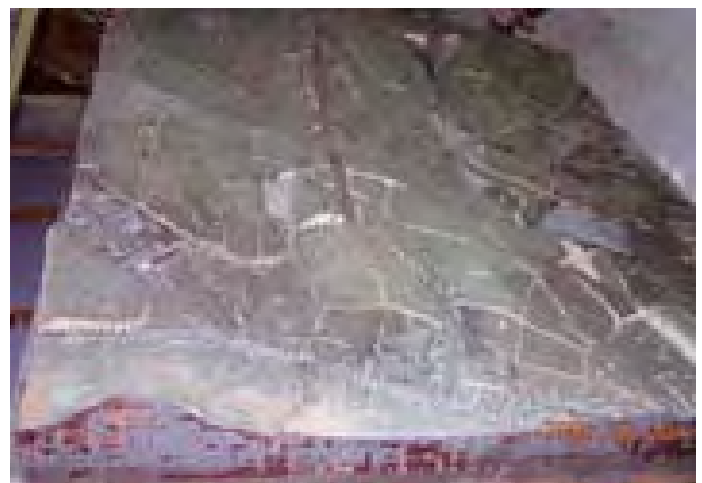
本年2月、大学文書資料室は、豊田講堂地階倉庫内で大学の歴史的遺産ともいえる二つの模型（東山キャンパス「田村模型」）を発見しました（写真1）。今回発見された模型は、名古屋帝国大学創設の翌年にあたる1940（昭和15）年夏から1941年2月頃にかけて製作されたもので、当時の名帝大医学部長である田村春吉（元名古屋医科大学総長・のちの第2代名帝大総長）が京都の島津製作所（模型部）に製作を依頼した1/1000スケール模型です（写真2）。

実は、この「田村模型」については、春光同門会編『田村春吉』（1954年刊）という文献中の山元昌之「聡明敏活」等において、その存在や作成経緯、さらには模型に対する田村の思い入れなどが触れられていましたが、現物の所在は明らかではありませんでした。そこで、大学文書資料室では昨年（2019）の春以降、模型の所在調査を開始した結果、1960年代前半の一時期には豊田講堂ロビーに置かれていたという本学元職員の日

撃情報等を得ながら模型の探索を行っていました。

この「田村模型」は、当初1/1000模型一つの製作が進められていましたが、途中、田村の指示により高さだけを1/100に変更した模型（写真3）が追加発注されました。追加模型では、現在の東山通（写真3下部）、鏡ヶ池（同右端）、東山動物園（同左端）のほか民家・街路樹なども忠実に再現されています。しかし何よりこの「田村模型」の資料的価値は、名帝大創設当初の医学部東山移転構想に基づいて、医学部諸施設の中央を通る（現在の本部別館と硬式テニスコートを結ぶ）計画道路が組み込まれている点、また、東山キャンパス・プランニング用に用意された文字通り本学史上最初の東山キャンパス模型という点にあるといえます。

なお、この「田村模型」については、中日新聞（2005年3月26日付夕刊）においても取り上げられました。



- 1
- 2 1 発見時の状態（左側が完全な1/1000模型で、右側が高さのみを1/100に変更したもの）
  - 2 2 模型に貼り付けられた「島津製作所模型部」プレート
  - 3 3 模型（写真中央から上（南）に伸びているのが計画道路。模型下部を左右（東西）に走るのが現在の東山通。）

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.144

2005年5月

ニュース

平成17年度入学式が挙行される

平成17年度 名古屋大学入学式



## 37 名大史を見てきたクスノキ

名古屋市立大学の山の畑キャンパス（瑞穂区瑞穂町）は、かつては名大のキャンパスでした。その歴史は古く、1908（明治41）年の旧制第八高等学校（八高）創設までさかのぼることができます。戦後は名大教養部となり、1964（昭和39）年、東山キャンパスの教養部校舎（現共通教育・情報文化学部棟）建設と交換する形で、名古屋市に譲渡されました。

すでに当時の建物はありませんが、校庭跡は「剣ヶ森」として多くの樹木を残し、八高・名大時代の景観を現在に伝えています。中でも古いのが、以前このコーナーで紹介した「八高青春像」の脇および西方にあるクスノキです。直径約1.5mで、正式な測定はされていませんが、樹齢100年前後のものではないかと言われています。

クスノキの古木といえば、樹齢700～800年をほこる伊勢神宮、それよりやや若い熱田神宮のものが名古屋近辺の双壁をなします。しかしそれ以外は単独の古木はあるもののごく新しく、山の畑のクスノキは、地域における学校史のモニュメントとしてだけではなく、植物学的にも貴重なものです。その他にも同キャンパスには、創立当初に本館前へ植えられ、八高のシンボルとも言われた大ソテツが残されています。またこうした巨木は、周囲の気温を下げる効果もあるそうです。

このような、文化財としても自然の記念物としても高い価値を持つ樹木を、ぜひ長く保存して後世に伝えていきたいものです。



- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 1 名市大・山の畑キャンパス（写真中の数字で示したものが、樹齢100年前後と言われるクスノキ） |
|   | 3 | 2 東山キャンパスに移転する直前（昭和38年頃）の名大瑞穂キャンパス（教養部）         |
|   |   | 3 名市大のクスノキ（名市大・谷本英一教授撮影）                        |

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.145

2005年6月

特集  地球博  
EXPO 2005 AICHI JAPAN



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

## 38 第1回名大祭

2005(平成17)年6月、名古屋大学では恒例の名大祭(テーマ：道草)が6/2(木)から6/5(日)の4日間にわたって開催されました。

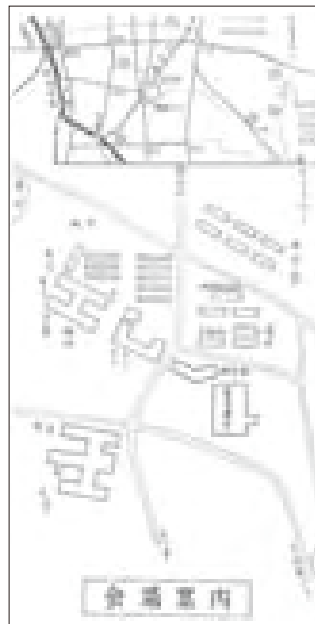
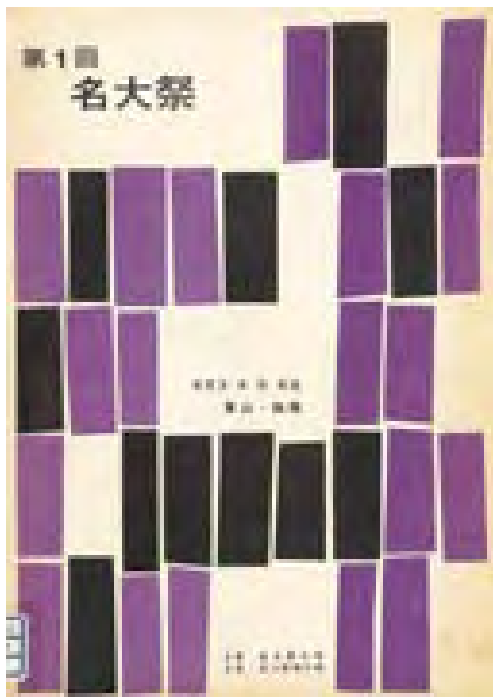
さて、例年6月初旬に開催されるという点で全国的にも珍しい大学祭の一つである名大祭ですが、その記念すべき第1回が開催されたのは1960(昭和35)年のことでした。以下、大学文書資料室が保管している第1回名大祭プログラム冊子(全28頁)を素材に、45年前の名大祭の姿を紹介していきます。

名古屋大学主催・名大祭実行委員会主管という形で開催された第1回名大祭は、東山・鶴舞の両キャンパスを主会場とする「名古屋大学史上初のフェスティバル」と位置づけられ、学内には名大祭誕生に対する喜びと期待が満ちていたと思われます。こうした喜びや期待の背景には、少なくとも二つの要因がありました。一つは、「たこ足大学」ともいわれていた本学において、それまで市内各所に分散

していた部局の東山地区集結が進むとともに、豊田講堂の完成(1960年)によって地理的な環境の改善が図られたことです。もう一つは、「60年安保条約改定」問題(1958～59年)や伊勢湾台風被災者への救援活動(1959年)などによって、「学生運動」が盛り上がりを見せていたことです。

以上のような時代背景のもとで開催された第1回名大祭では、「日本人民のエネルギーの継承と発展の方向を求めて—日本人民の歴史づくりのために—」という基本テーマが掲げられ、全学的な規模での講演会・討論会・シンポジウムをはじめとして、各学部展示会・施設公開、医学部祭、自治会・サークルなどが主催する研究発表、音楽・演劇・舞踊の各公演が期間中に数多く開催されました。

なお、第1回名大祭プログラム冊子の催し物案内には、「キャンプ村開設」(6月3・4・5日/東山一带)という項目が掲載されており、東山キャンパス整備・拡充期ならではの行事が行われている点も興味深いです。



### ■キャンプ村

東山は絶好のキャンプ地である。集まって、青春をうたおうではないか。学生のファイトと集団生活の素晴らしさを御覧あれ。



- |   |   |   |                      |
|---|---|---|----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 1 第1回名大祭プログラム        |
|   | 4 |   | 2 名大祭会場案内            |
|   |   |   | 3 「キャンプ村開設」案内        |
|   |   |   | 4 第1回名大祭開催当時の東山キャンパス |



# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.146

2005年7月

第46回名大祭「道草」が開催される



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

39 名大初の女性博士

2003（平成15）年度の名大における博士号取得者は557人にのぼります。そのうち、約4分の1にあたる148人が女性であり、すでに女性の博士は珍しい存在ではなくなっています。

しかし、女性が大学教育から疎外されていた戦前において、女性の博士号取得はきわめて稀であり、それだけで大きなニュースになるほどだったのです。

名大初の女性博士は、早くも名古屋帝国大学（名帝大）が創設された1939（昭和14）年に見ることができます。湯本（旧姓中尾）アサ（1902-1979）という女性でした。

1902（明治35）年、神奈川県箱根に生れた中尾アサは、父親を早く亡くして貧しいなか、母と兄に支えられながら、その抜群の成績により奨学金などを受け、横浜英和女学校から東京女子医学専門学校（現東京女子医科大学）に進みました。同校を首席で卒業したアサは、卒業生で初めて海

外に留学し、アメリカのミシガン大学から公衆衛生学の学位を授与されています。

再度の留学先であるドイツでエリート官僚の湯本昇と結婚したアサは、1935年、夫の赴任先である名古屋に同行します。そこで金城女子専門学校（現金城学院大学）の講師をしながら、名古屋医科大学専攻科で研究を続け、同大学が名帝大となるのとほぼ同時に、37歳で博士の学位を得たのです。博士論文の題目は、「女子の身体発育におよぼす職業の影響」でした。

その後、戦争による混乱や夫の病気などで研究を断念せざるをえなかったアサですが、戦後は教育家としても活躍することになりました。群馬県の教育委員を8年も務めたのち、1956年に母校成美学園（元横浜英和女学校、現横浜英和学院）の学園長に就任し、以後16年にわたり、同学園の発展に大きな足跡を残しました。



**職場の彼女を代辯**  
**湯本さん** 名大初の女醫博  
**陣中論文では宇佐美中佐**

上びこれと對照するため女學生をとり上げて附記をなしたもので、

既婚婦の觀察では、既婚婦は体格力ともに良好、市の發育もよく、廣く、女店さんは身長の高いはゆる業入で、女學生は、即ち、はゆる業入で、女學生は、即ち、

一日の名帝大醫學部發會で七人の學位論文が通過したが、新醫學博士の中に同大最初の女博士が登場した、これは即ちの則金城女學部湯本アサ女史だ

主論文は「女子の身體發育におよぼす職業の影響」で、金城女學部で執筆をとる傍ら、箱根衛生學教室主任の指導で一ヶ年に行つて看護婦、バス車掌、醫務工場、陶器、紡績女工、女店員、

護婦優良、紡績女工、バス車掌となつてゐるが要するに、

身体を動かすことの多い作業は市の發育が良好で、坐業は發育不良、立業は身長發育が良く、バス車掌は作業強度とみられるとあり

産業衛生學上、既婚の論文といふべきである、なほ「既婚婦の觀察」による「職業別ガスマシ作動による健康」で新醫學博士となつた宇佐美中佐は愛知醫大出身の海軍軍醫少佐で陸軍南支那司令部から論文を送つてきたものである、新博士は次の通り

毛受英次（名古屋中港門前町八ノ七）△宇佐美正夫（名古屋中區東山町三ノ六）△湯本アサ（神奈川縣三浦郡栗野町新二二二八ノ八）△村島名白（岐阜市山崎町四ノ二二）△伊藤藤（名古屋東區清水町出見）和松山縣妙寺町居住△河津敏夫（名古屋千種區瑞穂町二ノ三）△藤原廣（甲府市元柳町）

- 1 | 3
  - 2 |
- 1 湯本アサ（成美学園時代、『湯本アサ先生の思い出』より）
  - 2 米国公衆衛生協会欧州視察団（1930年）に加わったアサ（一列目中央、『湯本アサ先生の思い出』より）
  - 3 当時の新聞記事（『名古屋新聞』1939年8月2日朝刊）

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.147

2005年8月

国連大学／ユネスコ国際会議を開催



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

## 40 青色発光ダイオードと豊田講堂時計台

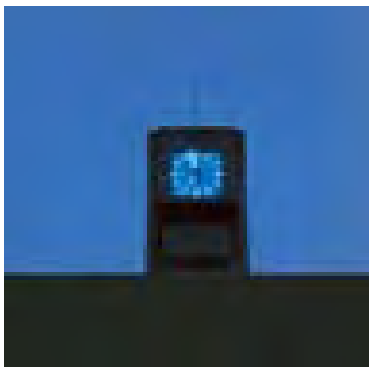
現在、本学東山キャンパスのランドマークである豊田講堂は、夜間のライトアップが行われ、時計台にも鮮やかな青色のイルミネーションが施されています（写真1）。今回は、その時計台のイルミネーションについて紹介します。

本連載第8回（No.115）で取り上げたように、豊田講堂は1960（昭和35）年に完成しました。当時、豊田講堂時計台（直流式塔時計・文字盤直径2m）はライトアップやイルミネーションなども全く施されておらず、昼間しか時計をみることはできませんでした（写真2）。

では、時計台にイルミネーションが施されるようになったのはいつ頃であるかという、それは1994（平成6）年度のことです。ただし、その当時のイルミネーションは、文字盤および時計針・分針に赤色の発光ダイオード（LED）が組み込まれたものでした（写真3）。その後、現在のような青色LEDへと変更されたのは2001年11月のことで、豊田合成株式会社からの寄付によるものでした。

特筆すべきは、現在の時計台に組み込まれている青色LEDは、本学の赤崎勇特別教授が工学部に在職中の1989年に発明・開発したもので、豊田合成株によって実用化されたものです。豊田講堂ロビー西側入口手前の壁面には、「豊田講堂時計台に用いられている青色発光ダイオードは、本学 赤崎 勇 名誉教授が工学部在職中に開発されたものであり、豊田合成株式会社の寄付により完成したものである。」と記された記念プレートが設置されています。

なお、当時不可能とされていた「青」色発光の半導体開発を世界に先駆けて実現した研究業績は半導体研究に革命をもたらしたともいわれ、赤崎特別教授は2004年度の文化功労者として顕彰されています。また、本学では、2000年度から本学に還元されるようになった青色LEDの国有特許実施料を活用して、赤崎記念研究事業（特定研究推進、研究奨励、産学連携推進の3事業）を行っています。



1	2	3
	4	5

- 1 青色LEDが輝く豊田講堂時計台
- 2 完成当初の時計台
- 3 赤色LED当時の時計台
- 4 世界初のGaN-p-n接合型青色LED（1989年）発光させている1つのLEDの光がウェハー内を透過し、周縁で反射している。（名大トピックス No.138より転載）
- 5 赤崎記念研究館模型

